

ブラック炭酸水

吉原 煙也

ゲップが出る

喉元が強引に

こじ開けられる

ゴワーツと出る

自分の知らない

本当の自分が

まるで弾かれ分解され

粉々になる

脱魂。

——たまらない。

プッチン・パッチンと

簡単に死ねたら

気持ち良いのに

ボコボコ腸が動き

使っていない臓器が

誤作動したかのように

ブツブツブーツと出る

過去を知らない

60兆個の細胞が

まるで進化論の乱議

傷付くだけなのに

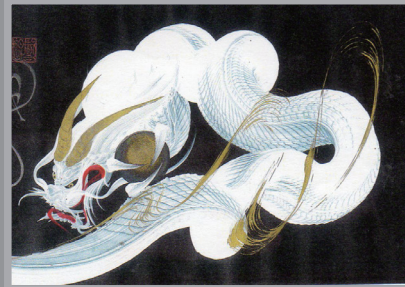
生魂。

——もう、いいのに。

腐った気泡

グイッと飲み干した

よしわら えんや



一九七四年生まれ

群馬県在住

歯科衛生士

日本文学館第8回ポエム「恋」大賞「ロロロロ」

日本文学館詩集旅路の果て「提灯草」

著書／詩集「永遠の詩ポロポロ」

小説「偈化流浪の煙々グレイライン」

上毛新聞・掌編の回掲載 詩・多数掲載

復興支援詩歌

立ち上がる三陸への応援歌

「泥水の華詩」